

「西日本に来るとアウエーだと感じる」。被災地で活動する市民団体の代表者の言葉です。大震災当時は東京にいました。その後、故郷の福岡に移った私には、その意味が良くわかります。西日本と東日本では、大震災に対する温度差が確かにあります。こちらには地震はほとんどありませんが、毎年のように台風や水害にさいなまれ、その復興に追われています。そして、東北はとても遠い場所です。

この福岡で自分に何ができるかと考えていた時、四月四日の「東北復興日記」のコーナーで、福島県南相馬市で活動す

東北復興日記

110



JKSK会員
矢動丸(やどうまる)純子さん

福岡から思いつなげる

「ベテランママの会」を知りました。南相馬に住む子どもたちや若い世代を支援する会の活動に共感しコンタクトを取ったのが、代表・番場さち子さんとの出会いでした。それから交流を続け、

九月に九州に来るという講演を依頼しました。「福岡市内で」

「ベテランママの会」を知りました。南相馬に住む子どもたちや若い世代を支援する会の活動に共感しコンタクトを取ったのが、代表・番場さち子さんとの出会いでした。それから交流を続け、

九月に九州に来るという講演を依頼しました。「福岡市内で」



「福岡を語ろう」というテーマで日時を決めたところ、当日は市民の方だけでなく、福島県人会や被災地支援活動をして

いる方、そしてメディア関係者も参加してくださいました。写真。現地に住む番場さんの話は説得力があり、分かりやすく、皆さん真剣に受け止めていました。質問も尽きず、時間を延長するほどの盛り上がりでした。終了後も場を移し、番場さんを囲んで皆で語り合いました。福岡では、被災者の生の声を聞く機会はあまりありません。被災地の現状に関心があっても、情報がなく、そのままにしている人が多くいるのです。知ること、そして立場の違う人たち

と思いをシェアすることの大切さを感じました。「現地を見たい」という意見が多く出ました。福島・南相馬ツアー実行委員会が発足します。遠いと思っていた福島も、現地に友ができれば近くなり、仲間になれば思いが深まるはず。少しずつですが動きだしました。小さな点と点がつながって線になり、広がっていけばうれしく思います。

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。